

平成30年2月期第2四半期 決算説明資料

日本の会社を元気にする一番の力へ。



(東証JASDAQ 証券コード3562)

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。さまざまな要因の変化により、実際の実績と異なる可能性があることをご承知ください。

- ・ハイライト P3
- ・平成30年2月期第2四半期決算概要 P4
- ・今期(平成30年2月期)見通し P13

ハイライト（平成30年2月期第2四半期）

・当四半期連結累計期間は、売上高、各利益ともに堅調に推移いたしました。

＞売上高	3,838百万円
＞営業利益	129百万円
＞四半期純利益	77百万円

・オフィスコンサルタント事業：計画どおりに営業人員が増員しましたが、生産性を維持することで堅調に推移いたしました。

＞セグメント利益	89百万円
----------	--------------

・システムサポート事業：先行投資期間のためコスト支出が先行するも、工事の積極的な内製化が奏功し、利益を確保いたしました。

＞セグメント利益	40百万円
----------	--------------

平成30年2月期 第2四半期決算概要

損益計算書の概要①

当四半期連結累計期間の実績は、売上高・営業利益ともに堅調に推移しました。その結果、参考値ではございますが、**前年同期実績を上回りました。**

[連結損益計算書]

【単位:百万円】

	平成29年2月期 第2四半期累計実績 (参考値※)	平成30年2月期 第2四半期累計実績
売上高	3,431	3,838
売上総利益	1,344	1,491
営業利益	42	129
経常利益	34	120
親会社株主に帰属する当期純利益	20	77

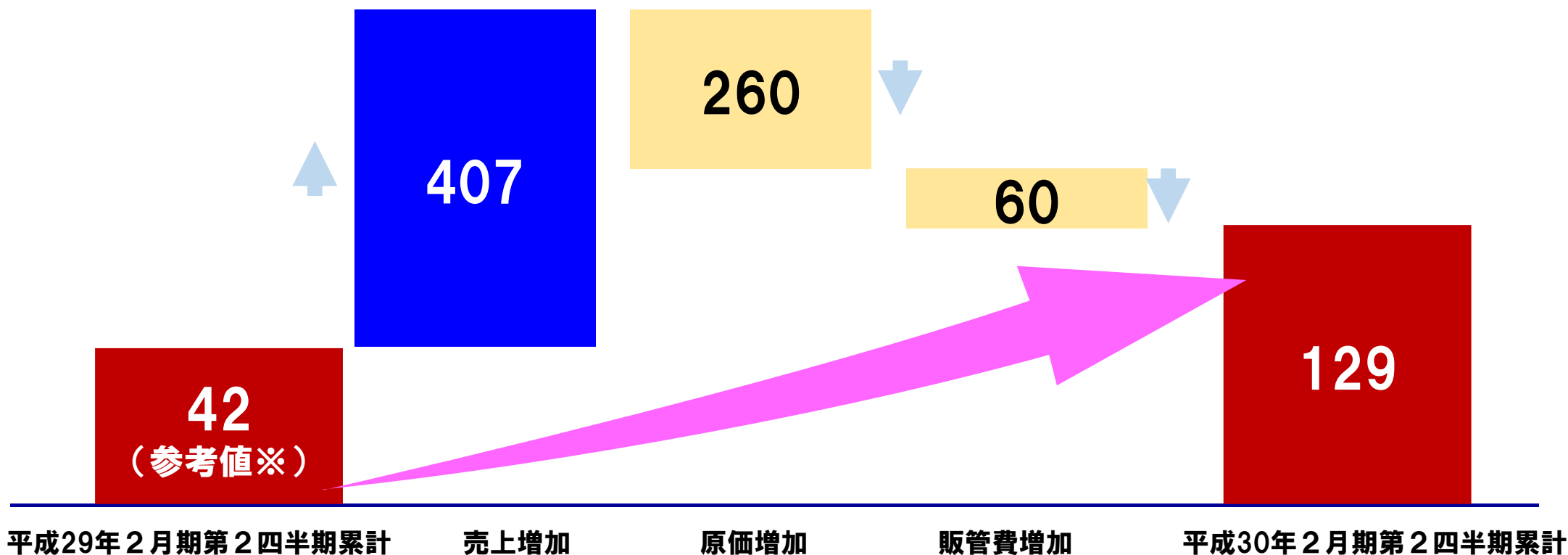
※平成29年2月期第2四半期累計実績につきましては、監査法人の四半期レビューを受けておりません。

損益計算書の概要②

[営業利益増加要因]

オフィスコンサルタント事業が売上高を牽引。営業稼動人員を増加したうえで、生産性を維持することが出来た結果、利益が増加いたしました。

【単位:百万円】



※平成29年2月期第2四半期累計の営業利益実績につきましては、監査法人の四半期レビューを受けておりません。

セグメント実績概要

各セグメントにおいて、売上・利益ともに堅調に推移いたしました。

【単位:百万円】

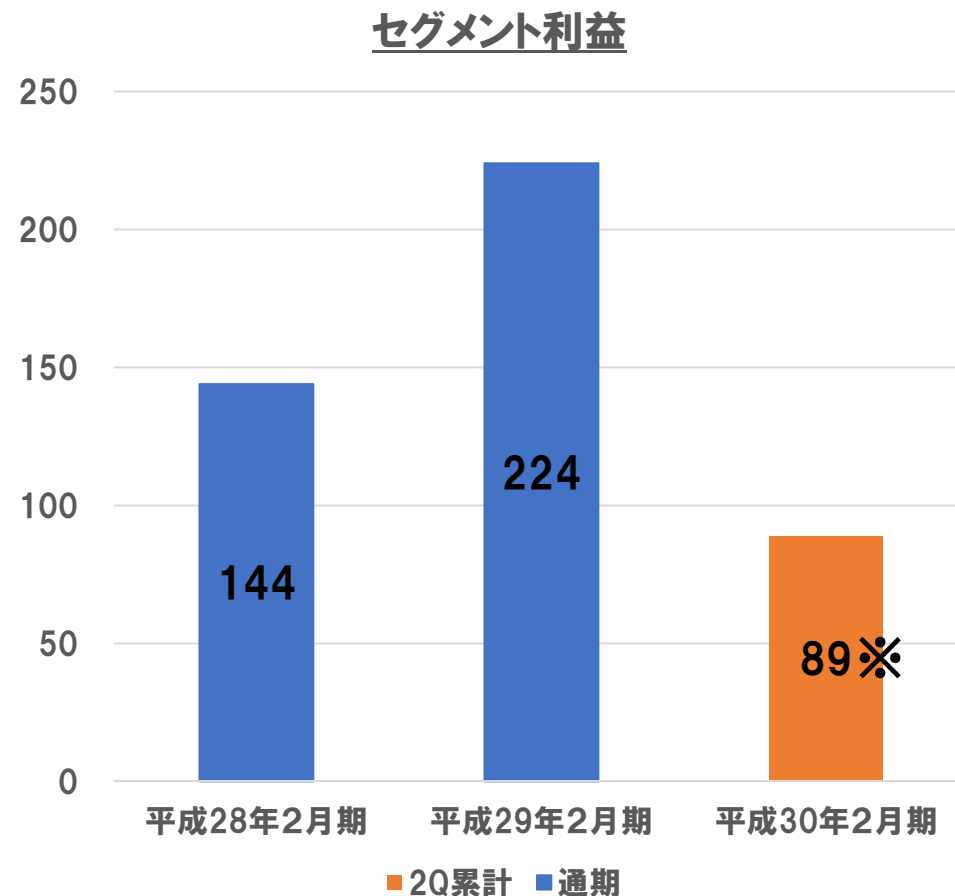
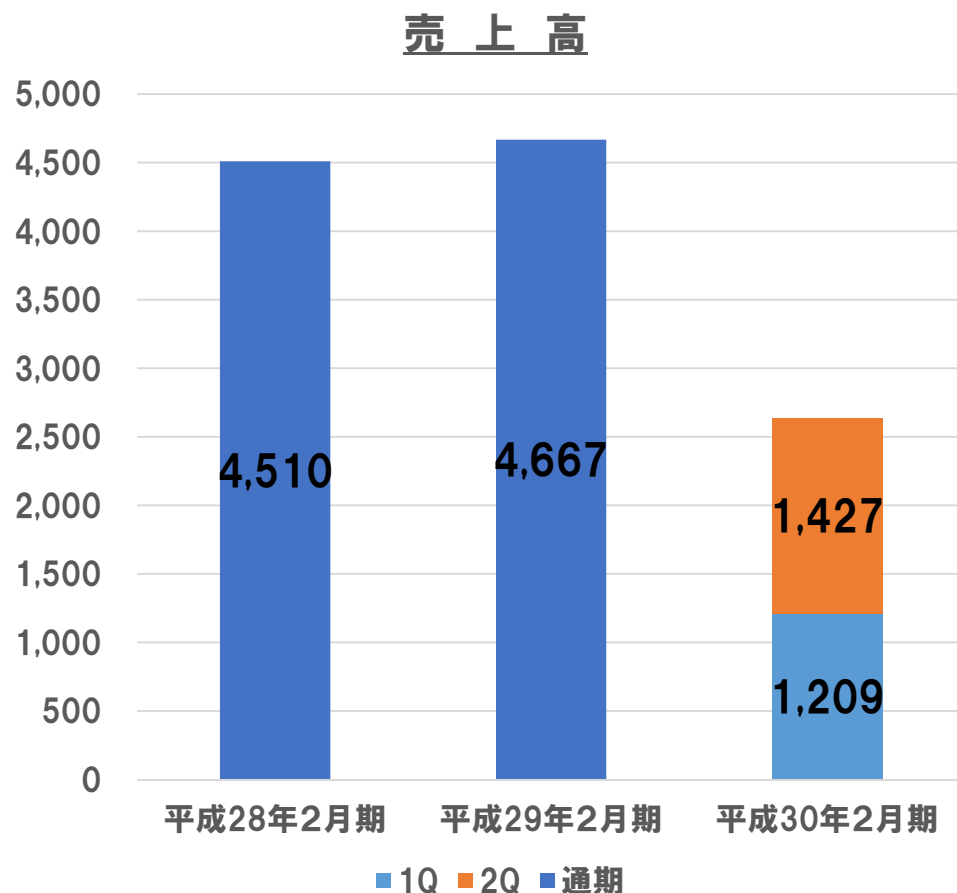
		平成29年2月期 第2四半期累計実績 (参考値※)	平成30年2月期 第2四半期累計実績
売上高	オフィスコンサルタント事業	2,261	2,636
	システムサポート事業	1,171	1,202
	報告セグメント計	3,432	3,838
	合計(連結)	3,432	3,838
セグメント利益	オフィスコンサルタント事業	97	89
	システムサポート事業	-54	40
	報告セグメント計	43	129
	合計(連結)	43	129

※平成29年2月期第2四半期累計実績につきましては、監査法人の四半期レビューを受けておりません。

セグメント別実績(オフィスコンサルタント事業)

新入社員の増加に伴う先行投資(教育及び研修)が一段落し、当第2四半期は生産性が回復し、セグメント利益についても堅調に推移いたしました。

【単位:百万】

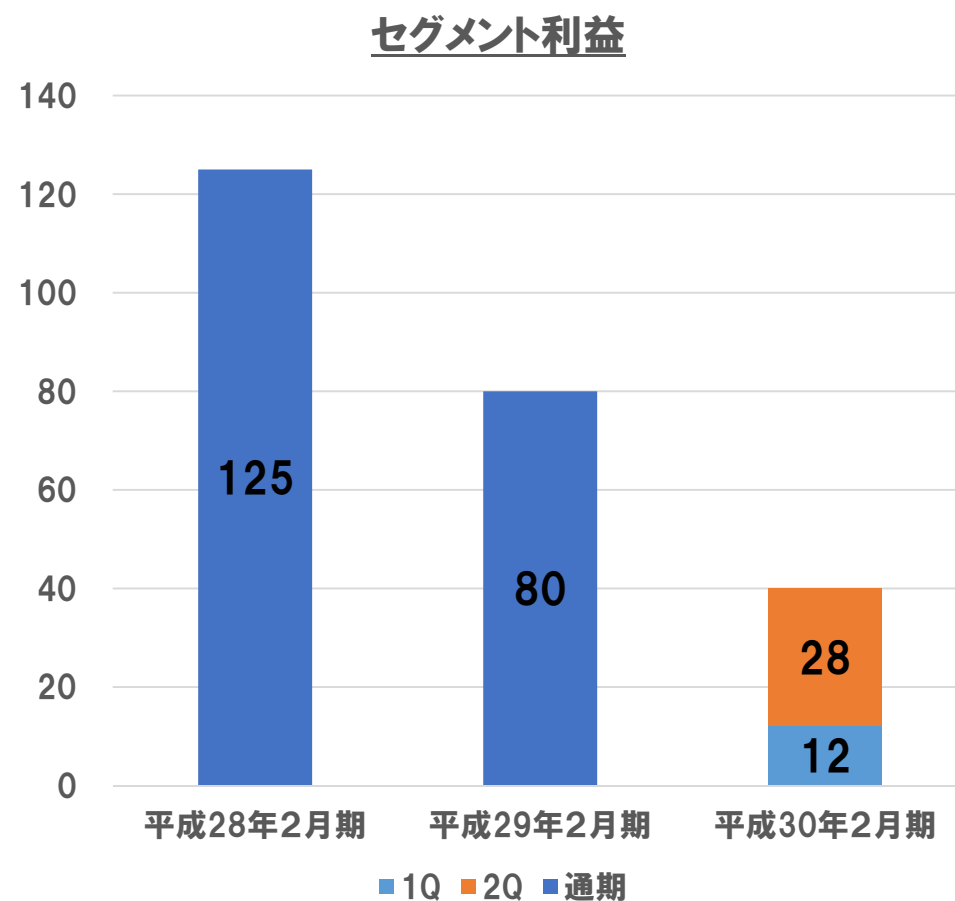
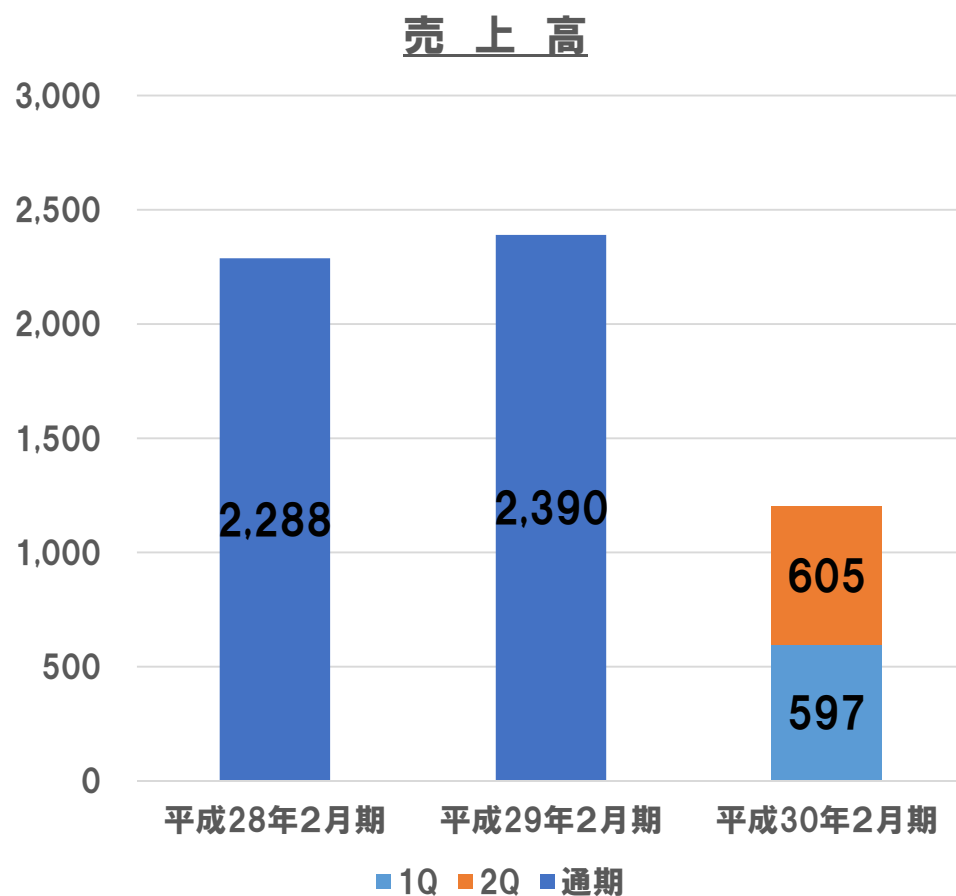


※当連結会計年度の第1四半期は、-37百万円、第2四半期は126百万円となりましたので、表記上は累計で表示しております。

セグメント別実績(システムサポート事業)

生産性向上に努め、当第2四半期は、売上及びセグメント利益ともに堅調に推移いたしました。

【単位:百万】



貸借対照表の概要

[連結貸借対照表]

【単位:百万円】

	平成28年2月期	平成29年2月期	平成30年2月期 第2四半期末
流動資産	2,074	2,527	3,107
固定資産	420	465	432
資産合計	2,495	2,993	3,539
流動負債	1,441	1,598	1,694
固定負債	470	350	301
負債合計	1,912	1,948	1,995
純資産	582	1,044	1,544

◆流動資産は、売上拡大、新株の発行に伴う現金及び預金の増加によるものであります。

◆純資産は、新規上場に伴う公募増資等により、資本金並びに資本剰余金がそれぞれ増加したことによるものであります。

キャッシュ・フローの概要

[キャッシュ・フロー]

【単位:百万円】

	平成28年2月期	平成29年2月期	平成30年2月期 第2四半期末	要因
営業CF	139	290	57	利益の増加
投資CF	-51	-43	5	保険の解約
財務CF	-143	161	345	新株の発行
現預金残高	817	1,226	1,634	—

◆営業キャッシュ・フローは、売上が堅調に推移したことにより、税金等調整前当期純利益の増加による収入によるものであります。

◆投資キャッシュ・フローは、貸付金の回収(10百万円)及び保険の解約(36百万円)による収入があった一方、事務所の移転、改装に伴う有形固定資産の取得(18百万円)及びシステム開発に伴う無形固定資産の取得(10百万円)による支出があったことにより、5百万円の収入となりました。

◆財務キャッシュ・フローは、新株発行(418百万円)による収入があった一方、社債の償還(48百万円)による支出があったことにより、345百万円の収入となりました。

◆現預金残高が堅調に積み上がり、より強固な財務体質となりました。

(参考資料)顧客ニーズに合致した自社企画商品例

平成29年9月28日付けで、当社の自社企画商品である「WALLIORシリーズ」にて以下の商品をプレスリリースいたしました。

情報セキュリティ販売

■NWS-2T500SS (ファイルサーバー※1)

- 販売開始 :平成29年10月
- アライアンス先:(株)アークン



**ルーターとパソコンの両方でしっかりガード！
大切な情報はダブルで守る！**

※1. ファイルサーバーとは、ネットワーク上でファイルを共有するために設置する機器です。

企画経緯

「改正個人情報保護法」に伴い、これまで個人情報保護法の適用を除外されてきました5,000人分以下の個人情報を取り扱う事業者も同法が適用されることとなりました。

これを受けまして、当社の主要なお客様である中小企業の事業者様につきましても同法への対策が求められることとなりましたので、情報セキュリティへの関心の高まりはもとより、コンプライアンス対策の側面からも支援すべく、同法にて求められる安全管理措置のうち、技術的安全管理措置に対策を講じた新型サーバーを、アークンと共同企画し、提供することとなりました。

今期(平成30年2月期)見通し

平成30年2月期の業績予想

売上・利益ともに**過去最高値更新**を予想。

[平成30年2月期通期予想]

【単位:百万円、%】

	平成29年2月期		平成30年2月期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
売上高	7,057	100.0	7,437	100.0	+380	+5.4
営業利益	304	4.3	330	4.4	+26	+8.8
経常利益	290	4.1	311	4.2	+21	+7.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	191	2.7	203	2.7	+12	+6.7

※第1Qから第4Qと平成30年2月期は計画値となっております。

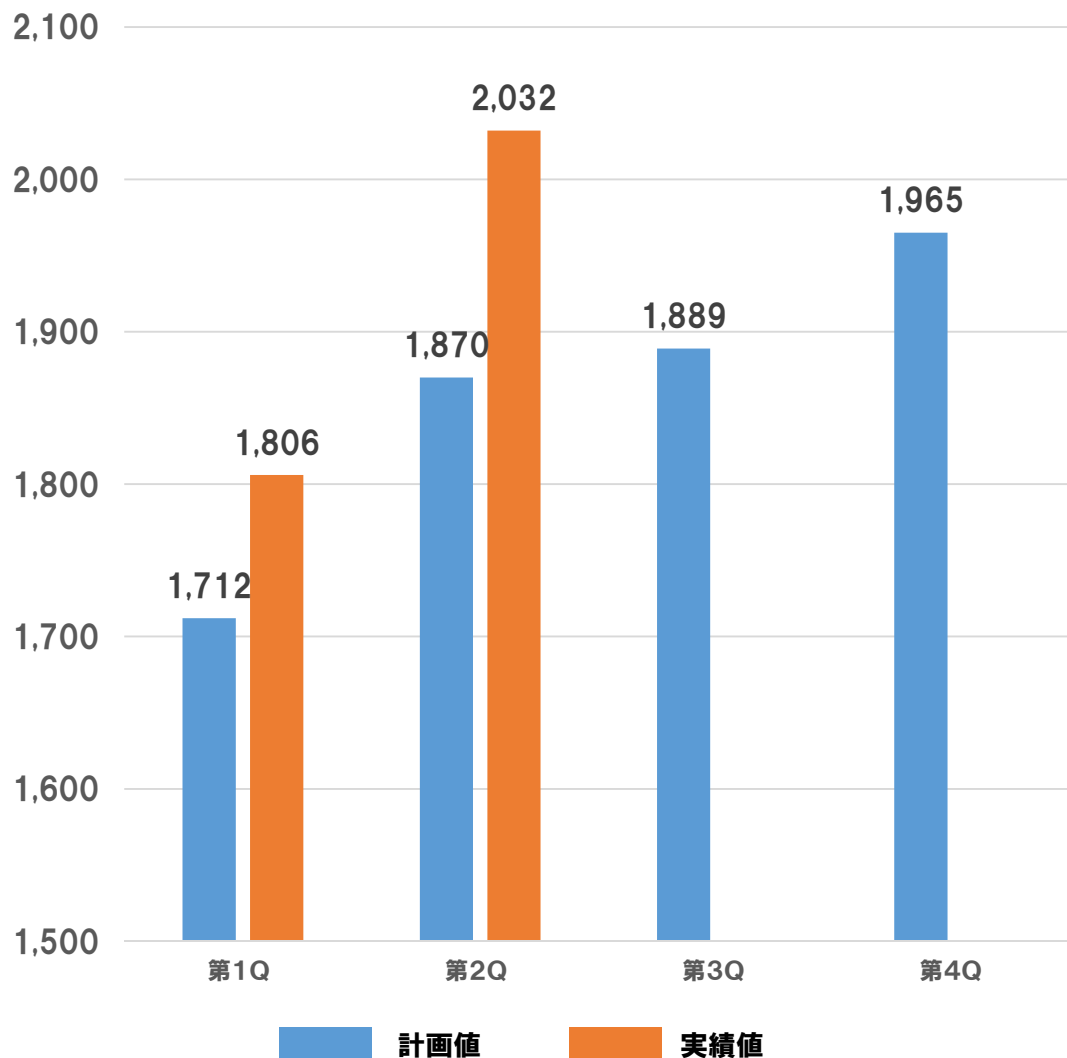
平成30年2月期の業績予想

- ◆ 当第2四半期累計期間は、売上高、利益を堅調に積上げ、売上高 **7,437百万円**（前期比 **5.4%増**）、営業利益 **330百万円**（前期比 **8.8%増**）と過去最高値を更新する予想であります。
- ◆ 第1四半期は新入社員の増加及びその育成に注力したため、利益は低調に推移しましたが、第2四半期は、売上及び利益ともに堅調に推移いたしました。引き続き、売上及び利益ともに堅調に推移する予想であります。

平成30年2月期の業績予想と実績

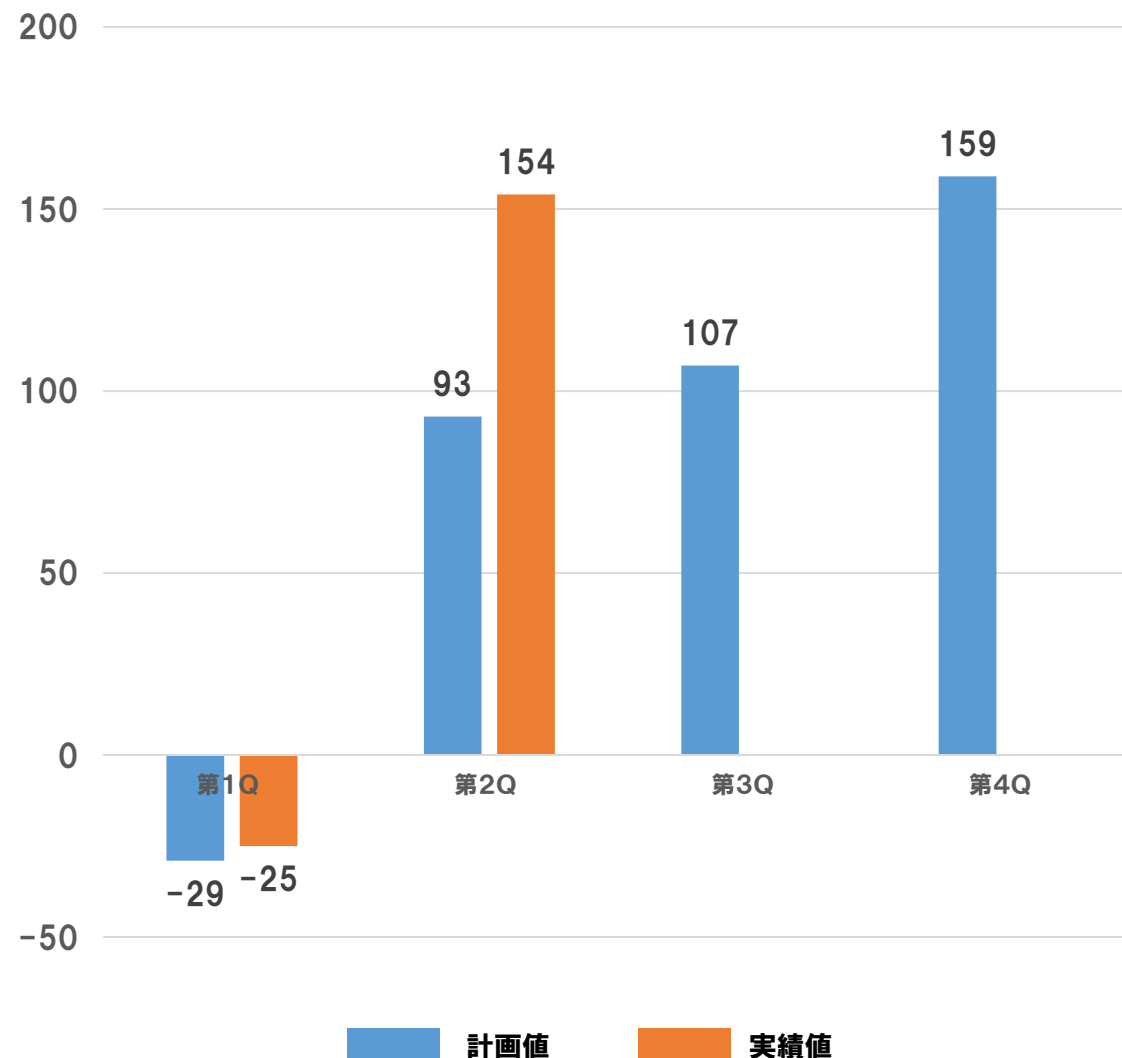
(単位:百万)

四半期売上高推移



(単位:百万)

四半期営業利益推移



将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。

これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらのリスクや不確実性には、一般的な業外ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報や将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

株式会社No. 1

お問合せ先：経営管理本部 経営企画室 keieikikaku@number-1.co.jp

日本の会社を元気にする一番の力へ。



株式会社 No.1